

(別紙5)

【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 27-2  
補助事業名 平成27年度 ICT社会における安全・安心確保に関する 補助事業  
補助事業者名 一般社団法人日本教育情報化振興会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

これまで、インターネットには危険な面があるということで児童・生徒をそれらから遠ざけるのではなく、子どもたち自身がインターネットを上手に使い、上手に付き合っていけるようにすることが大切であるという考え方に基づいて「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」を開催してきた。これは、直接、児童・生徒と保護者に対し、ネット社会をどう歩いていけばよいのかを指導、啓発するセミナーであったが、学習指導要領の総則に「各教科等の指導にあたっては…情報モラルを身につけ…」と記載されたことを契機に、全ての教員が、全ての教科で情報モラル指導をできるように、その指導法、教材や現在児童・生徒の抱えている問題点など最新の情報を提供することを目的として、平成23年度から公益財団法人JKA の補助をいただき、情報モラル指導の講師を育成すべく「情報モラル指導充実のための事業」を行い、教職員や教育委員会の指導主事などを対象としたセミナーを開催して、今年度はその 5年目にあたる。正しい指導方法を広く展開することを重要な観点として、セミナー参加者がその地域の教育委員会や学校に戻り、そこで講師として指導ができるための教材と指導方法を伝える資料を用意し、裾野を広げるための活動としている。

(2) 実施内容

教育現場のICT安全安心対策検討委員会にそれぞれのワーキンググループ長を委員とした委員会を置き、そこに下記の3つのワーキンググループを設置し、それぞれの研究方法によりICTの安全安心活用について研究を実施している。

① 情報モラル指導充実のためのワーキンググループ

<http://www.japet.or.jp/Top/ActivityReport/netwalk/>

地域の指導的な立場の教員に対し情報モラルが指導できるよう指導者育成を実施、主に情報モラルやセキュリティに関するセミナーを実施できる指導者を養成、その指導のための教材としてセミナーで使用した教材・情報を提供、さらに家庭等でも「情報モラル」が親子のコミュニケーションの題材となるような新たな事例への対応を盛り込んだコンテンツ等情報の提供を行っている。

(別紙5)

ネット社会の歩き方教材 (<http://www2.japet.or.jp/net-walk/>)



教材はこんなことをしてはいけないよ」と教えるのではなく、「なぜ、こんなことになってしまったのか皆で話し合おう」というオープンエンドの教材が多く、児童・生徒に少しでも考えさせる場面を提供することを狙っている



スマートフォン等でのセキュリティ管理の重要性などを解説しているWebコンテンツ。



スタジオアッセンブラージュでの学習教材へのアフレコ（音入れ）の様子

(別紙5)

ネット社会の歩き方講師育成セミナー（14カ所での開催）

また、当会で実施事業の全国セミナーにおいてもネット社会の歩き方講師育成セミナー実施、1地域ではなく、近隣の教員も対象に広域の活動を実施



セミナー風景（講義）



セミナー風景（ワークショップでの話し合い）

② コミュニケーション力育成のためのワーキンググループ

[\(http://www.japet.or.jp/Top/Case/21ccom/\)](http://www.japet.or.jp/Top/Case/21ccom/)

言語は、コミュニケーションや感性・情緒の基盤であり、子どもの人間性の成長に深く関わっている、そこで、これからの「ICT社会におけるコミュニケーション力の育成」を、学習活動の中にどのように取り込んでいくか、その取組を支援する研修を企画し、全国で実施した。今年度は、研修内容の授業へのさらなる定着と次年度に向けた新たな試みとして、100人規模のセミナー集客を目指した試行的セミナーの開催に組み込んだ。



岡山市立岡山中央中学校での研究会風景  
(平成27年8月5日)



船橋市立坪井小学校での研究会風景  
(平成27年8月31日)

③ ネットの使い過ぎ撲滅のためのワーキンググループ



(<http://www2.japet.or.jp/betterlife/>)

現在、日本人の9割がネットを利用する時代である。とくに10代、20代のネット利用率は100%に近い。ネットは様々なデバイスで利用されているが、とくに若年層ではモバイル機器(従来型携帯電話、スマートフォン)による利用時間が長く、10代の89%、20代の63%がモバイル機器を通じたものである(「日本人の情報行動2015年調査」※1)。

とくにスマートフォンの普及はめざましく、10代で81%、20代で92%が利用している。

スマートフォンはネットへの接続が容易で、機器の普及とともにネット利用時間が増加している。前述の調査によれば、10代20代とも1日のネットの利用時間はテレビを上回る。

若年層のネット利用の中心はメールやソーシャルメディアなどの「コミュニケーション系」であり、ネット全利用時間の半分以上がこれに当てられている。若年層の大半はソーシャルメディアサービスの一つLINEの利用者でもあり、10代の79%、20代の87%が利用者である。

ネット利用時間の増加、ソーシャルメディアの普及とともに、過剰な時間、ネットで友人等とのやりとりをおこない、睡眠時間が減少するなど生活が乱れたり、家庭や学校、会社での人間関係にもほころびが出たりするケースが生じている。我々はこうしたソーシャルメディアの過剰利用に起因するネット依存を「つながり依存」と名付けた。

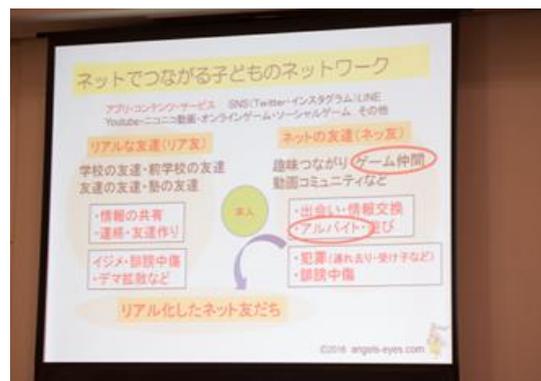
ネット依存傾向の判断にあたってはいくつかの基準が提起されている。学術的にも最も広く利用されているのは、アメリカの心理学者キンバリー・ヤングが提唱した「ヤング基準」である。ヤング基準にも8項目版や20項目版など、いくつかのバリエーションがあるが、原型が作られたのが1990年代の末であり、当時のネット環境と現在のネット環境には大きな相違がある。当時はパソコンによる利用が中心で、ネットの利用率も今よりかなり低く、ネット利用がいわば特殊な行為であった。現在は日米とも国民の大半がネットを利用しており、スマートフォンの普及は、ネット利用を日常的なものにした。むしろ四六時中ネットに接続しているのがさほど異常な状態でもなくなった。また、ヤングの基準が提唱された時代には、まだ現在で言うソーシャルメディアは普及しておらず、動画も閲覧で

(別紙5)

きなかった。当時の「ネット依存」はオンラインゲームやサイトの継続的閲覧を念頭においたものであり、基本的には我々の言う「つながり依存」を対象としていない。とくに日本では、若年層においてLINE等のソーシャルメディアの過剰利用が問題になっているが、LINEのサービス開始は2011年である。

従来のネット依存の基準が現状の若年層のネット利用の実態と必ずしも合うものでなく、とくにつながり依存を判断するスケールになっていないところから、我々の委員会では、様々なタイプの依存状況を弁別でき、とくにつながり依存をチェックする基準作りを試みた。また、中学や高校の現場で基準試案を実践的に適用し、その基準の信頼性・妥当性を検証した。

※1 「日本人の情報行動調査」は全国13歳から69歳の男女が対象で、層化2段無作為抽出、訪問留置調査による。2015年調査は有効回収数1,362票、2015年6月に実施。



「教育の情報化」推進フォーラムでの研究調査発表の様子  
オンラインベターライフ促進

改良版つながり依存識別指標 - その原理と適用結果 -

## 2 予想される事業実施効果

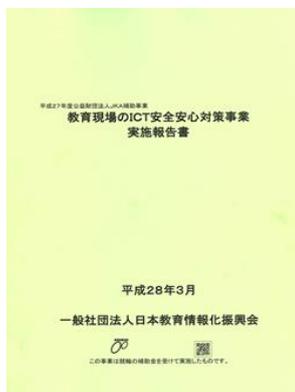
身近になったインターネットであるが、その利用により手軽に多くの情報を入手したり、見知らぬ人々とコミュニケーションを取ったり、自宅での買い物も手軽にできるなど、様々なことが手軽にかつ安全安心にできるようになると同時に、もう一方では児童・生徒がSNS や無料ゲームなどのコミュニティサイトで犯罪などに巻き込まれる事例も発生している。

JAPET&CEC では、児童・生徒の安全安心を願い「教育現場のICT 安全安心対策事業」を展開している、この活動は広く公開されているため、教育界だけではなく、保護者への啓発としても有効であり、地域、家庭での安心安全への意識を高めることができる。

(別紙5)

### 3 補助事業に係る成果物

#### (1) 補助事業により作成したもの



教育現場のICT安全安心対策事業実施報告書

[http://www2.japet.or.jp/jkahojo/H27\\_hokoku.pdf](http://www2.japet.or.jp/jkahojo/H27_hokoku.pdf)

#### 教育現場のICT安全安心対策事業実施報告書目次

<b>目次</b>	
<b>第1章</b> .....	1
<b>情報モラル指導充実のための事業</b> .....	1
1. 事業の目的.....	2
2. 作業項目とスケジュール/作業体制.....	3
3. セミナー開催.....	6
4. 学習教材開発.....	16
6. まとめ.....	24
<b>第2章</b> .....	25
<b>コミュニケーション育成のための事業</b> .....	25
1. 事業の目的.....	26
2. 作業項目とスケジュール/作業体制.....	27
3. セミナー開催.....	29
4. 学習教材開発.....	36
5. 成果発表会.....	37
6. まとめ.....	38
7. 継続とさらなる定着.....	39
<b>第3章</b> .....	40
<b>ネットの使いすぎ撲滅のための事業</b> .....	40
1. 事業の目的.....	41
2. 作業項目とスケジュール/作業体制.....	42
3. 指標作成の経緯.....	44
4. 「つながり依存」の社会背景.....	45
5. 学校現場の現状と指導演(指導のポイント).....	47
6. 子どもたち、保護者の現状.....	50
7. 「つながり依存」の識別指標の開発.....	52
8. 成果発表会.....	71
9. まとめ.....	72

(別紙5)

ネット社会の歩き方ユニット教材 (<http://www2.japet.or.jp/net-walk/>)



「つながりチェッカー」 (<http://www2.japet.or.jp/betterlife/>)



ネット社会の歩き方講師育成セミナーテキスト  
「学習ユニット」教材 (zip形式ファイル)



([http://www2.japet.or.jp/net-walk/otona\\_all.html](http://www2.japet.or.jp/net-walk/otona_all.html))

「ネット依存にならないために」冊子



「ネット依存にならないために」(冊子の内容例)

## ネット依存って、 どういうこと?

ネット依存とはどのような状態をいうのか、学校生活にどのような影響を及ぼすのかなど、ネット依存について知っておきましょう。

**10代**

12.8%

44.5%

25.3%

14.4%

110.1分

**20代**

40.4%

27.9%

38.1%

35.9%

132.8分

日本人のインターネット利用 97.3%

10代のスマートフォン利用 81.4%

20代スマートフォン利用 97.8%

日本の若者はメールやSNSなどソーシャルメディアの利用が多い!

**● スマホが手元にないと、不安になる**

インターネットにつながるスマートフォンやケータイが手の届かなくなると、不安になったり落ち込みやすくなったりする人が「ネット依存」です。

ネット依存が重症になると、家族や友達とどうもつきあえなくなったり、学校の成績が落ちたりします。遅刻も多くなります。学力が落ちる、よく眠れないなど、身体にもいろいろな影響が出てきます。

1998年ごろ、日本ではインターネットを利用している人は、わずか13.4%でした(※1)。一部の人がパソコンでメールを交換し、ほとんどのWebページは文字と静止画だけでした。

その後、インターネットを利用する人がぐんぐん増えていきました。2015年には日本人の87.3%(※2)が利用しています。インターネットの利用時間も伸び、高校生は1日平均192.4分、中学生は127.3分(※3)にもなります。インターネットの利用時間が伸びた背景には、スマートフォンの普及があり

ます。2015年時点で10代の81.4%、20代の97.8%がスマートフォンを利用しています(※2)。内閣府の調査では、高校生は92.3%、中学生は42.7%がスマートフォンを通じてインターネットを利用しています(※3)。

インターネットを利用して、高校生は89.9%、中学生は62.9%がコミュニケーションしたり(※3)、たとえば無料通話アプリを使ってコミュニケーションしたり、SNSから情報発信したりしています。スマートフォンは、中学生にとって大事なコミュニケーション・ツールとなっています。

けれども、コミュニケーションし続けて、やめられなくなってしまうのが「ネット依存」です。

ネット依存って、どういうこと?

**● ネット依存3つのタイプ**

ネット依存は、「コンテンツ依存」「ゲーム依存」「つながり依存」の3つに分けられます。これは、「人との関わり」という点から区別することができます。

日本の10代、20代は、メールやSNSなどの利用時間がかなり長く、「つながり依存」傾向が高い人が多いといわれています。

**【コンテンツ依存】**

長い時間にかけてネット上の書き込みを見る人たり、動画や音楽サイトを誰しんだらするのことが度を過ぎると、コンテンツ依存といわれます。動画や音楽の視聴がワクワクとできようになり、コンテンツの内容も充実してきたため、いざど復讐を始めるとなかなかやめられません。

**【つながり依存】**

SNSなどで人とコミュニケーションをする中で、依存に陥っているものです。ソーシャル依存、きずな依存やゲーム依存、愛しなくなってなかなかやめられない状態です。これに対し、つながり依存は、友だちとの関わりを断つことになったため、やめたくてもめられず、結果としてスマートフォンやケータイが手放せない状態にあることをいいます。

**【ゲーム依存】**

インターネットが普及する前からありました。当時は自分ひとりで楽しむもので、人との関わりがありませんでした。ただし、現在は、人との関わりをもながらゲームをする「オンラインゲーム」が主流になっているので、コンテンツ依存と分けられます。

**● あなたのネット依存をチェック!**

**つながり依存チェックアプリ「ネットライフチェック」を使ってみよう!**

- 「ネットライフチェック」は、あなたが今、どの程度、どんなタイプのネット依存の傾向があるかを測るツールです。
- 「つながり依存」「ゲーム依存」「コンテンツ依存」の3タイプのネット依存を、それぞれ100点満点で算出します。

**ネットライフチェックの使い方**

- ①ウェブ上の「ネットライフチェック」にアクセスします。  
URL: <http://www2.japet.or.jp/betterlife/check/index.html>  
または「JAPETACEC」「ネットライフチェック」で検索します。
- ②20項目のそれぞれについて「はい」「いいえ」を選択します。
- ③3タイプのネット依存度が表示されます。

「ネットライフチェック」を使って、自分が今どんな状況なのか把握しましょう。

- 「ネットライフチェック」は、複数タイプのネット依存を同時に測定できる、我が国初のツールです。作成に当たって東京大学情報学部の橋元良明教授から研究データを提供していただいたことで、これまであった診断のものに比べ高い信頼性をもっています。
- ネットライフチェックの「依存度」はあくまで目安です。
- ネットライフチェックで個人を特定できる情報は記録しませんので安心してご利用ください。

●「ネットライフチェック」の開発は一般社団法人日本教育情報化推進委員会(JPETACEC)に所属しています。ネットライフチェックの開発や調査等の実施はご依頼いただけます。



(別紙5)

(2)(1) 以外で当事業において作成したもの  
特になし

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名 : 一般社団法人日本教育情報化振興会  
          シヤ) ニホンキョウイクジョウホウカシンコウカイ  
住 所 : 〒107-0052(半角)  
          東京都港区赤坂 1-9-13 三会堂ビル8階  
代 表 者 : 会長 赤堀 侃司 (アカホリ カンジ)  
担当部署 : 調査・研究開発部 (チョウサケンキュウジギョウブ)  
担当者名 : 総務部担当部長 赤松伊佐代 (アカマツ イサヨ)  
電話番号 : 03-5575-5365(半角)  
F A X : 03-5575-5366(半角)  
E-mail : akamatu@japet.or.jp  
U R L : <http://www.japet.or.jp/>